

第47回北海道学生選手権は17日、札幌・厚別公園競技場ほかで第2節の1部2試合、2部1試合を行った。全日本大学選手権・甲子園ボウルへつながる1部は準決勝を行い、前年優勝の北海学園大が北星学園大（前年Bブロック2位）に53-0で快勝し、前年準優勝の北海道大も帯広畜産大（前年Aブロック2位）を28-6で下した。両校は第3節の24日、パインボウルの出場権をかけて決勝で対戦する。2部は決勝を行い、東京農業大が北海道科学大に70-7で大勝し、2部優勝を決めた。東京農業大は最終節の31日、1部6位校と入れ替え戦を行う。

北海学園大は自陣44ヤードからの最初の攻撃シリーズで、RB山本遼太（3年、札幌国際情報高）が56ヤードを一気に走り切り先制のTDを奪うと、2本のFGとRB丸川祐生（3年、北海高）の12ヤードTDランで第1Qだけで19点。第2QもRB丸川の2本目のTDラン、QB河合祐輔（3年、札幌第一高）からWR屋敷龍作（4年、石狩南高）への20ヤードTDパスで加点。第3QにはQB河合からRB山本への29ヤードTDパス、第4QにもQB河合からWR寺川隆吾（3年、北海高）への29ヤードTDパス、RB高杉武生（1年、浦河高）のTDランでリードを広げた。北星学園大はQB中手龍一（2年、札幌静修高）とWR北野啄夢（4年、旭川南高）のホットラインが北海学園大守備に封じられた。

北海学園大の高木幸樹ヘッドコーチは「経験不足が出た。決勝に向けてほとんど全部を修正したい」と快勝にも厳しい評価。エースRBとして2TDランの丸川は「去年より体重を増やし、一人のタックルでは倒れない走りが持ち味。若いラインを引っ張る走りをしたい」と北大との決勝を見据え、3TDパスのQB河合も「北大戦は厳しい戦いになる。パスの精度を上げて、要所で確実に決める」と決意していた。



北海道大は立ち上がりに帯広畜産大のラン攻撃で先制を許したが、自陣42ヤードからの最初の攻撃シリーズでRB手塚雅斗（4年、栃木・佐野高）のランとQB茨木大輔（3年、兵庫・六甲学院高）のパスで着実にゲイン。RB榊琢也（2年、札幌東高）が飛び込んで7-6と逆転した。第2Qには再びRB手塚のランで前進し、RB鈴木優太（3年、東京・桐朋高）の2ヤードTDランで加点。第3QにはQB茨木からWR本郷維規（3年、兵庫・市立西宮高）への22ヤードTDパス、第4QにもRB榊の2本目のTDランで加点した。



帯広畜産大はキックオフ直後の自陣40ヤードからの攻撃で、北大守備ラインの隙を突いてランを進め、最後はR B石村周也（1年、札幌清田高）が1ヤードを飛び込んで先制したが、その後は北海道大守備に封じられた。

北海道大の里見佑三監督は「試合経験が不足し、前半はあわてたが、勝ったことが収穫。決勝に向け、試合開始から力を出せる練習をする」と対策を挙げた。初試合で2TDと活躍したR B榊は「初めての試合で緊張したが、ラインの穴を見つけるのが得意。カットバックなど細かな動きも自信がある。決勝もとにかく前へ進む」と決意し、3年目の先発QB茨木は「初戦だったのでランもパスも基礎的なプレーを選んだ。決勝は最初から乗っていけるプレーをする」と2年ぶりの王者奪回へ決意していた。